

## 知識の繋がりを意識したアーカイブ理解の促進

渡部 航太郎

文書等の管理に関する法律の第二十三条には「国立公文書館等の長は、特定歴史公文書等について、展示その他の方法により積極的に一般の利用に供するように努めなければならない」との記述がある。この条文より、文書館は本来、一般の人を広く利用へ導かなければならないが、それを十分に果たしているとは言えない。近年、デジタルアーカイブが増加し、広くアクセスできるようになったものの、単純にデジタル化しただけというデジタルアーカイブが多く、利用が広がったとは言えない。その原因として考えられることに、一般の利用者はアーカイブに対する知識が少なく、理解することが難しいからと考えられる。そこで、本研究ではアーカイブ資料の情報を他の情報資源と結びつけることによって、アーカイブ資料に対する知識が少ない人に対してアーカイブ資料への理解促進を図ることを目的とする。

この目的を果たす手法として、情報のオープンデータ化と他の情報を繋げる仕組みである **Linked Open Data** を用いる。今回は、日本語版 **Wikipedia** の情報を **LOD** として公開するプロジェクトである **DBpedia Japanese** と図書館情報大学およびその前身校の約 1 世紀にわたる図書館専門職養成に関わる歴史的資料である「図書館情報学アーカイブ」を繋げたシステム構築した。そのシステムでは、資料中の用語や写真に対して、アノテーションを付与し、そのアノテーションに関わる用語やその用語に関係する用語を検索できる機能を実装した。アノテーションを付与する基準として、アーカイブ資料を閲覧する際に重要なポイントや、普段聞きなれない用語を設定した。

利用者がアーカイブ資料の理解促進をすることができたかどうか確認するため、評価実験を行った。実験では本研究で作成したシステム利用群と画像のみのアーカイブ資料を閲覧するシステム非利用群に分け、アーカイブに関する質問紙調査を解いてもらった。アンケートの問題は全部で 8 問であり、1 問 1 点とした。システム利用群の平均点は 4.5 点、非利用群の平均点は 1.5 点だった。

以上の結果から、アーカイブ資料を他の情報資源と繋げることで理解促進に繋がったということができた。しかし、システム利用者の中でも正しく解答できない設問もあったことから、より多くの情報資源と結びつけ、アーカイブ資料の理解をより促せるよう、システムを改良していく必要がある。

(指導教員 宇陀則彦)